



2004. 1

No.2

特定非営利活動法人 C.PI 教育文化交流推進委員会

発行所：C.PI.スリランカ事務所

c/o ; Sri Lanka-Nippon Educational and Cultural Centre
Mahindarama, Road, Etul-Kotte, Kotte, Sri Lanka

本部：東京都三鷹市中原 2-16-9 Tel:0422-49-3808

E-mail: CPI_mate@muh.biglobe.ne.jp

URL: http://www.cpi-mate.gr.jp

お母さん、お父さん ありがとう

私の思い出

手紙を読みたくて日本語を覚え、大きな幸せをつかみました。 ハルシャ・ペレーラ

私はスリランカ日本教育文化センターで仕事をしているハルシャ・ペレーラと申します。今日この里子新聞にメッセージを書くことができ、とても嬉しく思っております。それは私も今から16年前に日本の里親さんから奨学金をいただいていた里子だったからです。

学用品の重さをわすれません

1986年のある日、一度も会ったことのないお坊様が、学校から預かった私のレポートを持ってうちに来られました。私は3人姉妹で父だけ働いてとても貧しい生活をしていました。日本の里親さんから奨学金をもらうと聞き、言葉に出せないぐらい嬉しかったです。奨学金授与式の日、私のような10人の学生は奨学金を頂きました。学用品が入った重くて重くて自分で持てないぐらいの大きな鞆を胸に抱いて家に帰ったその日のことを、昨日のことのように印象に残っています。それからチャンダシリ僧侶の指示の下で日曜学校、補修クラス、日本語のクラスに通いながら頑張って勉強を続けました。

お父さんからの初めての手紙

私の日本のお父さんは伊藤さんという京都に住んでいらっしゃるお医者さんでした。ある日お父さんから写真とお手紙とお土産を頂きました。お父さん、お母さんとご家族の皆様の写真をみてとても嬉しくてたまりませんでした。しかしお手紙を自分で読めなかったことはとても残念に思いました。そのお手紙はスマンガラ僧侶に呼んでもらいましたが、こんど来た手紙は是非自分で読めるようになろう、そして私も自分でお手紙を書けるようになろうと決心し、勇気を出して日本語の勉強を続けました。そのお写真とお手紙は私の宝物として今でも大切に置いてあります。

日本語を話したい・・・

第3回目の奨学金授与式の日も私の印象に残っている日です。CPIの会長小西様のスピーチのときに、お坊さんから「日本語で話すように」と私が呼ばれたので震えながら舞台上に上がりました。小西様に日本語で声をかけられました。私は結局何も聞こえませんでした。家に帰ってもどきどきして夜眠れませんでした。「これはいけない、どうにか日本語で話せるようになりたい」と思い、センターに来られる里親さんと日本語で話すことにしました。センターに日本の方がいらっしゃるの私の1年中の楽しみでした。

日本語能力試験に合格、そして日本へ・・・

それからメニケ先生に教わって日本語能力試験の4級に合格しました。1993年に面接があつて日本旅行の一員に選ばれ私の1つの夢がかなえられました。生まれてはじめて



センターで日本語を教えるハルシャさん

飛行機に乗って

遠い日本に行って私の日本のお父さんお母さんお姉さんに会いました。人生の中にはこのような不思議な出会いもあるということに驚きました。私の手をとって涙を流したお母さんのご親切な顔は、今でも印象に残っています。それはたった2週間の旅行でしたが、学校を卒業してから、幸運なことが起きました。一年間日本に留学することになったのです。その間日本スリランカ文化協会の江崎会長様、鞍馬寺の皆様、田山先生をはじめ日本の方々大変お世話になり、皆様のお陰で何も問題なく、体験いっぱい1年間を過ごすことができました。皆様に心から感謝しております。

里子たちはみんな頑張っています

里子たちはよい教育を受けて、立派な社会人になって自分の両親、日本の里親さんを喜ばせるのは、皆の一番の役割だと私は思います。そうすれば国もだんだん発展していくと思います。

日本のお父さん、お母さん、皆様のお蔭で大勢の子どもたちは勉強を続けています。本当にありがとうございます。

日本で見たこと、感じたこと・・・

日本滞在中色々なことをたくさん学びました。

日本の整備された環境や行き届いたサービスに感心しました。活動的で礼儀正しい日本

の方々をみてよい勉強になりました。私の大

好きな紅葉の美しい秋、桜の美しい春が懐かしく思い浮かびます。しもやけができて寒くて寒くて震えた辛い冬のことも思い出の一つです。どんなに寒くても雪が降っていても、自分の仕事を普段のとおりに続ける日本人の姿を見たら、元気がでて頑張りたいという気になりました。

ところが大型ゴミの廃棄日に、あちこちに捨ててある、まだ使えるようなテレビ、たんす、ラジオなどをみて、世の中には食べ物もなくて困っている人が沢山いるのにどうして日本人がこんなことをするのか、私には考えられないことです。そして今の若い人は自立したら自分の親と離れて一人暮らしをしながらぜいたくな生活をしていることにびっくりしました。国の発展とともに人間の考え方もかわってくると私は思います。



ヌワラエリヤの山の中 こつこつと着実に頑張るハルシャ君を訪ねる

C.P.I.スリランカ・オフィス編集委員

ハットンは紅茶の産地では世界的に有名なヌワラエリヤ地域の中心地です。周りは紅茶畑ばかり、と言ったほうがぴったります。小高い山に囲まれた盆地ですが、その小高い山は全て紅茶畑です。海拔1000メートルのこの高地はスリランカの“暑い”イメージをまったく感じさせません。その丘の上にハットンの地区センターがあります。ゆったりとした雰囲気の小さなお寺です。ここのセンター長はマハガマさんで、温厚な人徳を感じさせるお坊さんです。紹介された少年は今年6月にALコースに進級したばかりのハルシャ君（17才）でした。今年ハットンセンターでは4人のOL受験生が全員パスして上級コースに進んだそうです。この学校では40人が受験して10人しか合格しなかった。そんな中でのCPI奨学生の4人が全員合格したのは、奨学生の選択が間違っていなかった証だろう、と感じました。

ハルシャ君の家を訪ねました。彼の家はハットンの町の中心部から少し離れた山あいにあります。車が行き交うことの出来ない裸道を2km程走りました。車から降りて更に5分ほど歩きました。草むらが深く、ところどころぬかるんだところがあります。「ヒルに吸い付かれる」ことを連想して、足元に気をつけながら歩きました。いくつかの家のそばを通りながら、丘の上のほうにある彼の家にたどり着きました。

通学に30分ほど歩いて通っている、という彼は170cmくらいでクラスでも大きい方だそうです。校内のサッカーチームのキャプテンをしている、なかなかの好青年です。

お母さんが心配そうに彼の横に座ったり、台所に行ったりして落ち着きません。お母さんは「病気をしない元気な子だった。朝は4時に起きる。小さいころから早起きだった。子どもの好きなことをやらせてあげたい。大学に行くことにも賛成だが、寂しくなる、お金もかかる。」そして人の力になれる「大人



になって欲しい。CPIのお陰で学校に行けている。感謝しています」と語ってくれました。彼の日課は朝4時に起きることから始まる。一番勉強する教科は、数学です。

なぜなら一番数学が好き

だから。2時に学校が終わって、3時に帰宅すると1時間ほど勉強して、後は近所の友だちと遊ぶ。9時にはベッドに入る。彼の家は大きいほうです。しかし家族の寝室とつながっていて独立した部屋は持っていません。一応自分の勉強する机はありました。机の上には自作の小さな電気スタンドがありました。

電球も小さなピンポン玉くらいのスタンドです。電気をつけて見せてくれましたが、とても“明るい”感じではありません。後ろには本箱があって、ノートが横積みになっています。教科書は学校からの貸与だから、前学年までの記録は、ノートか自分の頭しか頼りにならない。ノートに

びっしりと書き写されたシンハラ語を見ると目が回ります。彼はALクラスに進級し、商業コースを選びました。大学に行きたいと考えているけど、ALを優秀な成績で卒業しないと、自分の希望する大学や学科を選択できない。4教科中、少なくともAが2個、Bが1個なければだめだ。研究テーマの論文も大きなポイントになります。[進路のことや悩みについては誰に聞くの?]\と尋ねると、「センター長の坊さんや学校の先生に聞くときもある。近くにいる先輩なんかの話も時々聞ける」と答えました。彼にとって月に一度センターに集まり、そこで同じCPIの奨学生に会うことは彼の励みになっているようです。



(45)ハットン・センター、4109、K・B・ハルシャ・マドゥシャーナカ(男子)

病気の母を助けながら、生徒会活動にも積極的なデリカさん

C.P.I.スリランカ・オフィス編集委員

キャンディの北、約 60 km のところにダンブッラの町がある。茶、稲作、野菜、ココナッツ、ココア、ゴムやスパイスなど農産物の栽培が盛んな地域です。住民の多くは主に耕作に従事しています。ここに日本の郵政省の援助で SNECC が作ったスリランカ日本幼稚園があります。ここが地区センターにもなっています。ダンブッラの現在の奨学生は 34 人います。ここに、4 人の奨学生に集ってもらいました。



左から Devika さん (9 年生) Hema さん (9 年生) Amila 君 (10 年生) Chaminda 君 (11 年生)

みんな数学、英語が好きだといいます。家では宿題や得意な科目を 2 時間くらい勉強しています。そして、土曜日には数学、英語の塾にも通っています。朝ごはんはどうしているか聞きました。朝食食べる子と食べない子が半々でした。そして、11 時の休憩の時間に弁当を食べています。それもみんな簡単なカレーとご飯が多いようです。将来は先生になりたい、という子が多い中で、Chaminda 君はエンジニアになりたいとはっきり言いました。11 年生ということは来年 OL レベル試験です。考え方もしっかりしているようです。

デリカさんに、もう少し詳しく聞いて見ました。

この辺は蛍が飛び交うことで有名なところです。デリカさんは、蛍が飛ぶのを見ているのが大好きなのです。今年 9 年生になり、C.P.I の支援を受けることになりました。生まれて 5 ヶ月のときに父を亡くし、お母さん一人で育てられたのですが、そのお母さんも、神経痛と子宮筋腫を患っており、仕事はできないとのこと。彼女は、学校で英語を教えている叔父さんに助けられて育ってきたのでした。

「5 年生のときに政府の育英資金のテストを受けたが、ぎりぎりのところで不合格になってしまった。小さい頃から優秀な子だった。芯が強く、辛抱強い子どもだった」と叔父は彼女の生い立ちを説明してくれました。「2005 年の OL 試験、そして 2007 年には AL 試験がある。可能ならば大学まで行かせたい。この子には思いっきり勉強させてやりたい」と熱っぽく語ります。そして、C.P.I.の活動について「貧しい子どもは沢山いる。優秀な子どもも沢山いて、CPI

の支援はそんな子供を助けるだろう。しかし、その生徒の潜在的な才能を見て奨学生を決めなければいけない。校内での信望も必要だ」と進言してくれました。



デリカさんは、生徒会の活動もよくするし、他の生徒の模範生でもある。みんなが CPI の奨学生として認めているから、問題は全く起きないそうです。家事の手伝いがあるから、机に向かうのは 7 時を過ぎてしまう。2 時間くらい、得意な数学と英語の勉強をする。土曜日には 2 時間の数学塾に通っている。「将来は先生になりたい」と言っていました。彼女の母親は、「子どもが学校から CPI の奨学生の通知を貰ってきたときは、みんなで喜び合った。あの日のことは忘れない。自分に力がないし、しかも子どもの進路は成績しだいなので、親として欲はいえない。でも本人の希望を出来るだけ伸ばしてやりたい。」と小さい声で話していました。「人の力になれる大人になって欲しい。C.P.I の力によって学校に行けることに感謝している。忘れることはない」としっかりした口調で言っていました。



(仲良く遊ぶ園児たち)

スリランカ最大の祭り”キャンディ・ペラハラ”

キャンディには仏陀の歯が祭られている仏歯寺があります。仏歯を入れた舍利容器を乗せた象に続き、きれいな衣装で着飾った象が 100 頭も列をなし、世界から多くの観光客が集まる大きな祭りです。シンハラ人の信仰する神々を祀る神祀では、年に一度大きな祭りがあります。御神木を立てて神迎えをし、何日間かにわたって、ご神体を司祭が担いで周囲をまわったり象の背中に乗せて巡行してさまざまな祈願をこめます。これをペラハラ(行列)と言っています。特にキャンディでエサラ月(7～8 月)に行われるペラハラ祭りは世界的に有名です。



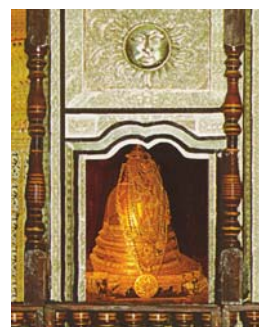
私たちの学校は満月の日(Poya Day)の日だけ休みになります。小さい頃からこの祭りは大好きです。家ではご馳走も作ります。お母さんはお菓子も作ってくれます。親戚や兄弟が集まりますので、とても楽しい祭りになります。

スリランカの歴史の中で、アヌラダプラ王国時代は一番輝かしい時代です。この時期に仏教史上重要なできごとがいくつか起こりました。1つはミhinduというお坊さんがスリランカに仏教を伝えて、スリランカに仏教が始まったこと。もう1つはミhinduの妹でサンガミッタという名の尼僧が、仏陀がその下で悟りを開いた菩提樹の枝を持ってきたこと。そしてヘーママラとダントクマラが仏陀の歯を持ってきたことです。それは5世紀、キトゥシリメワン王の時代でした。仏歯は左右両方あり、右の歯はポロンナルワのソーマワティ・パゴダに収めてあります。

キャンディ・ペラハラはエサラ・ペラハラともいい、仏歯を崇拝してアヌラダプラ王国時代には3ヶ月も町をペラハラが練り歩きました。史実によると、トラン(山車)を作り、町は美しく飾ってあったといわれています。エサラ月の祭りは仏陀が悟りを開く前からあったといわれています。米など穀物の豊作を祈ってこの祭りがあります。かつて



は仏歯を象の背中に乗せてペラハラで行進させましたが、今は他の仏舍利を乗せて運んでいます。ペラハラが道を行く時、最初に鞭を打ち鳴らす者が行き、次に王の装束を着た者が続きます。その他に踊る者、太鼓を鳴らす者、仏舍利を乗せた象もいます。ナータ、ビシュヌ、カタラガマ、パッティニという神様のペラハラも行進します。このペラハラでは仏舍利ではなく、神様が身に付けるアクセサリーなどを運びます。



ペラハラは縁起の良い時間を選んで始めます。終わる時は仏歯寺の前の湖の水を刀で切り、そこから水を汲んで奉納します。15日間の祭りのうち、最初の5日間は神社の中で行われ、次の5日間はクバル・ペラハラとよばれます。最後の5日間はランドーリ・ペラハラといえます。満月の日に終わります。ペラハラが終わると檀家の代表と神社の氏子の代表がかつての王族の屋敷に行き、そこにその祭りのために来ている国家元首にペラハラの終わりを告げます。そして踊りや太鼓の人、象等を祝福します。ビシュヌ神社では7日間、神主により神事がとり行われます。

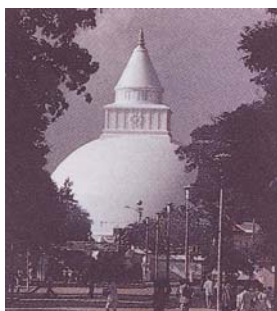
J.J.アノーマー・エランダティ・クマーリ

(里子番号 1979、センター番号 21・キャンディ・センター)



モナラーガラ県

バランドゥワ地方管区、モナラーガラ県はスリランカの南東部にあります。この地方はコロンボから約300キロメートル、車で約6時間の距離にあります。他の県に比べ、面積は広いのですが人口は約35万人しかいません。大変へんぴな県で交通事情も悪く私たちの生活や教育環境はとてもよくないのです。モナラーガラ県には、4つの地区センターがあります。モナガラ、ウェラワヤ、カタラガマと私が住んでいるシャンバランドゥワです。



県の南部にカタラガマがあります。スリー・パーダの山が聖地として有名ですが、カタラガマも相並ぶ聖地です。この地にカタラガマ神が住むといわれ、どんな望みもかなえてもらえると信じられています。キリ・ヴィハーラという巨大なダーガバ(塔)は有名です。県民の主要な職業は農業で、サトウキビによる砂糖作りも盛んです。また、オレンジやライムもとれます。自然環境は緑の森林が多いとてもよい所です。ヤーラ自然動物園、ガルオヤ自然公園等がこの地域にあります。この二つの自然公園は県の面積の20%もあります。ヤーラ公園では野生の象の大群が見られます。でも私が住んでいるところからは大変遠いので行ったことはありません。

この地域は乾燥地帯に属し、11月から1月までモンスーンの影響で雨が降ります。乾季は長く、その間、人も動物も飲料水などの水不足に悩みます。

この状態の解決にはまた再び雨が来るまで待たねばなりません。スリランカで一番大きいセナーナヤカ貯水池がありますが水はたりません。

私たちのセンターは灌木や大きな木などの茂る森の中にあります。遠くには山脈や湖が見えます。これらが私達この地方の住民の財産です。

(75)シャンバランドゥワ・センターA233D・M・アトゥサラ・ヘーマンティ・グナワルダナ、女子17才(12年生)



マータレー県

昔からとても重要な県とされているのがマータレー県です。歴史的に価値があるところがたくさんあります。

スリランカの中央部から少し北よりのところにこの県はあります。県の90パーセントは平野で、人口密度は227人です。県の総人口は約44万人です。県の総面積は1950平方kmです。主要な町はマータレーとダンブツラです。アヌラダプラ、ポロンナルワ、ジャフナなどへはみなダンブツラ経由で行きます。ですからダンブツラは中継地として重要な町になっています。年間の降雨量は2000~2500mmです。マータレー地方は気候が良く、涼しいですがダンブツラ側は暑いですが。マータレー県は歴史的に大事なところがいくつかあります。世界遺産の1つシギリヤ・ロック①と2000年以上昔に作られたダンブツラの洞窟寺院②③があります。

②③があります。マータレー・アルビハーレというお寺は、お釈迦様の言葉をスリランカではじめてここで文字に記したことで仏教歴



有名なシギリヤのフレスコ絵



ダンブツラの洞窟寺院内部と全体

史上重要なところですが。

ナーランダゲディゲという本殿はインドのパトラワ様式で作られていることで有名どころです。

気温はマータレーに近づくと20度ぐらいになり、ダンブツラ地方では22~25度かそれ以上になります。

マータレー県は平野が多く、森は少ないです。有名なカンダラマ・ホテルがあり、その隣には大きな湖もあります。

ダンブツラにはクリケット・スタジアムも有ります。一晩中お店が開いているのはダンブツラだけです。農業が主な産業で、米、野菜、タバコなどが収穫されます。スパイスもたくさんとれ、キャンディに近接するところにスパイス園がたくさんあります。

紅茶畑は少ないです。日本のノリタケの会社もあり、陶器製造でも有名です。旅行者も多く、中継地として将来さらに重要になるでしょう。

(53)ダンブツラ・センター3838 インディカ・ニシャーンティ・ワルナスーリヤ(女子)



ゴール県

スリランカは九つの州に分かれています。ゴール県は南部州に位置しています。カルタラ、ラトナプラ、マータラの3県と接しています。その反対側は海に接しています。この県の年間降水量は2,000mmです。5, 6, 7月は雨が多い季節になっています。

年間平均気温は摂氏26度です。人口密度は1平方キロメートルあたり250人です。県の総人口は約百万人です。人口の25%が良い家に住んでいます。シンハラ人、タミル人、ムスリム人がそれぞれたくさんこの県に暮らしています。



ゴール県は平野がその大部分を占めています。その他は小さな山が有るだけです。アンバランゴダの近くにはマードゥ湖があり、小さな島がその中にたくさんあって美しい景色を作り出しています。県の主要な川はギン川です。この川が海に注ぐのはゴール市の近くです。田んぼが県の広い面積を占めています。その他の産物として椰子、紅茶、ゴム等があります。農業用水としては自然雨が使われています。洪水によるギン川の氾濫で田んぼが被害を受けることも多いです。海に面して大きな港がありますので水産業も盛んです。政府によって税金を免除された工場がたくさんあります。工場は小さい物が多いですが、セメント工場だけは大きいです。その他は箒やロープなどの家内工業が多くあります。ゴールは港町として歴史は古く、14世紀頃からアラビヤ

人、ポルトガル人、オランダ人などの支配を受けた町で、植民地時代、オランダ人によって作られた要塞が残っています。これらの歴史的財産がUNESCOに認められて、世界文化遺産になっています。



インド洋が広く広がり、沈む夕陽に照らされる街の風景はすばらしい景色です。ゴール市郊外には海に面してルーマスサラ山があります。ゴール市の近くにはコッタワ森林という美しい森もあります。ヒッカドゥワは珊瑚

礁があることで有名です。ここはスリランカでもっとも観光客が多い地域になっています。ですから観光ホテルもたくさんあります。

アンバランゴダは仮面作りで有名な所です。ヒンドゥマにはカルワリ山という有名な山が有り、麓に美しい教会があるこの山にはキリストがゴルゴダの丘で処刑された時の様子が再現さ



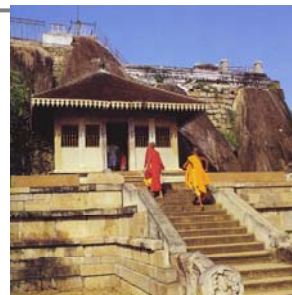
ゴール市内にある時計塔

れています。ゴール県出身は頭がいい人が多いと言われています。

D・アミラ・サンパトゥ・セナーナーヤカ(男子)、ウィディヤーラージャ・ジャーティカ校、(57)ヒンドゥマ・センター

世界遺産の宝庫 スリランカの世界遺産

UNESCO 採択の世界文化遺産は日本に11箇所ありますが、なんとこの狭いスリランカに7個もあるのです。如何に歴史的に豊かな国か、分かっただけでしょう。①2500年以上も前のスリランカ最古の都『アヌラダプラ』(写真上) ②王朝時代の名残を残す『キャンディ』 ③仏教都市として価値ある遺産『ポロンナルワ』(写真下) ④1500年前、195mの岩山に築かれた『シーギリヤ』 ⑤2000年前の石窟の中に14mの涅槃仏『ダンブッラ』 ⑥要塞都市『ゴール』 ⑦人の手が全く入っていない18000haのジャングル『シンハラージャ森林保護区』の7つです。



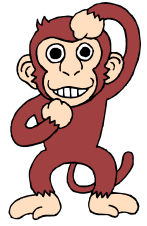
燃える火に干草をくべる

スリランカことわざ集

その2

どこの国でも、どこの言葉でも、会話や文章の中で“ことわざ”をよく使います。

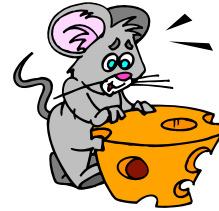
それは、その国の歴史や生活、環境に由来しています。その国の文化を知る上で大いに役立つことでしょう。スリランカにも沢山の“ことわざ”があります。日本の“ことわざ”に似ているものもあります。比較して、私たちの文化を知る材料にしてください。



(1) 棚を壊して椅子を作る。(役に立つものを犠牲にして他の役に立つものを作ること)

(2) 焼けたフライパンがかまどに落ちる (泣きっ面に蜂)

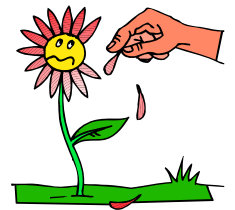
(3) 拝みに行った神社が頭の上に崩れ落ちる
(助けてもらいに行ったらもっと悪い事態になった)



(4) 水門に黒砂糖を隠す (水の流れるところに黒砂糖を置いたら溶けてしまうので、物を安全でないと置いておくこと)

(5) 夜なら落ちる穴に昼落ちる
(うかつで馬鹿みたいな失敗をすること)

(6) もうすぐ開くつぼみを外から触る
(待ちきれずに幼稚なことをする様子。例えば、すぐに開ける袋を何が入っているのかと待ちきれずに外から触る)



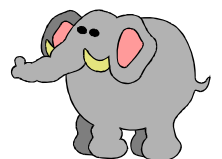
(7) 言葉だけでサツマイモを植える (言うは易く行なうは難し)



(8) カメレオンの首に金の首飾りをかける。(能力のないものを過大に誉めたので、いい気になってしまうこと)

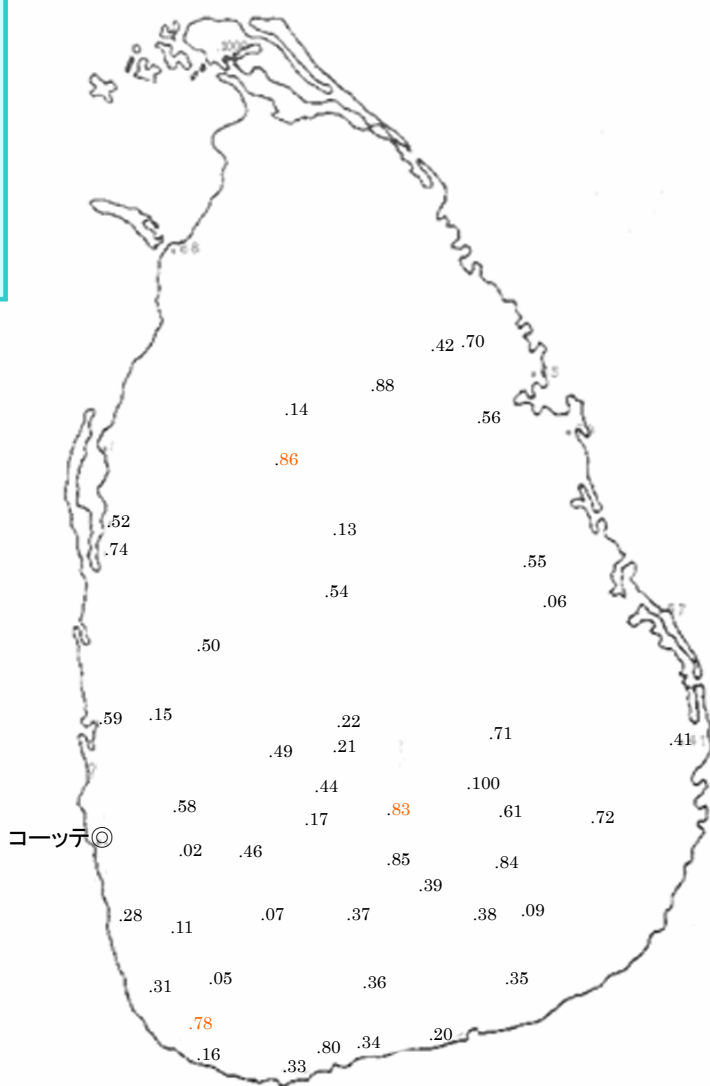
(9) 牛に与える草を取りにキトゥルの木に登る。
(キトゥルの木からは酒が取れる。悪いことをしてすぐばれる嘘をつくこと)

(10) 象の足を探すのに眼鏡はいらない
(象の足跡は大きく探すのに難儀はしない。そこで他人の過失や欠点、または他人の長所など明白なものにあれこれ物申す必要はない)



あなたの里子はどこに？

SNECC の地区センターは 101 ヶ所あります。日本の多くの方たちの協力を受けています。特に C.P.I. の教育支援によって、5,000 人もの子どもたちが学習し、そして卒業して社会で活躍しています。主に地区センターのお坊さんが子どもたちの世話をしています。皆さんの力で、子どもたちは大きく育っています。地図の中の番号は地区センターの番号です。あなたの里子の地区を探してください。地区番号は、里子報告書の名前の前に付けてあります。朱色の番号は CPI の関連基金であるウスイ・ランカ教育基金で学用品の供与のみを行っているセンターです。緑の番号は日本スリランカ文化協会が支援しているセンターです。



- 1) コーツテ
- 2) ウダガマ・バドゥッカ
- 3) ミーガハテンナ
- 4) アイピティア
- 5) ビティガラ
- 6) ボロンナルワ
- 7) パナポーラ
- 8) パレペッタ
- 9) モネラガラ
- 10) アルトゥガマ
- 11) マツガマ
- 12) デムワッタ
- 13) ケキラワ
- 14) アヌラーダプラ
- 15) ガンパハ
- 16) ゴール
- 17) コトマレ
- 18) ラトナプラ
- 19) ベランウィラ
- 20) アンバラントータ
- 21) キャンディ
- 22) アンパテンナ
- 23) スワラエリア
- 24) マバラガマ
- 25) —
- 26) パナドウラ
- 27) ホラーナ
- 28) カルタラ
- 29) アヤガマ
- 30) イッタパーナ
- 31) アフンガラ
- 32) アクレッサ
- 33) マータラ
- 34) タンガツラ
- 35) カタラガマ
- 36) スリヤウエフ
- 37) バランゴダ

- 38) ウェウワヤ
- 39) バンダラウェラ
- 40) バドゥラ
- 41) アンパーラ
- 42) ホロウポターナ
- 43) アクラナ
- 44) ガンボラ
- 45) ハットン
- 46) デラニヤガラ
- 47) デルゴダ
- 48) アッタナガラ
- 49) ケガッレ
- 50) カルネガラ
- 51) マダムペ
- 52) プッタラム
- 53) ダンブツラ
- 54) ガレウエラ
- 55) ヒングラツコダ
- 56) カンタレ
- 57) ヒニドゥマ
- 58) ドンペ
- 59) ネゴンボ
- 60) カハドゥワ
- 61) コスランダ
- 62) ウェリサラ
- 63) ヴァヴウニヤ
- 64) タンティリマーレ
- 65) トウリンコマリイ
- 66) パダウィヤ
- 67) バッティカロア
- 68) マンナーレ
- 69) セルウィラ
- 70) ゴマランカダウエラ
- 71) ナワメダガマ
- 72) インジニヤガラ
- 73) ワハルカーダ
- 74) ムンダラマ

- 76) テブワナ
77) バドゥラリヤ
78) ブツダガマ
79) ネルワ
80) ベリアッタ
81) カンブルピティア
82) ハグランケッタ
83) ウェラパーネ」
84) パサラ
85) ケーペティポーラ
86) イツベワラ
87) ワナッタウィルワ
88) カハタガスディギリヤ

- 90) キャビティゴッラーフ
- 91) ランバクラマ
- 92) マダワッチャ
- 93) タラーウ
- 94) アンビリピティヤ
- 95) タラワーキャリ
- 96) ワラスムツラ
- 97) カルムネイ
- 98) マハディウワ
- 99) ヤタラマツタ
- 100) マイヤンガネ
- 101) ジャフナ
- 102) ワフカンダ
- 103) マーワナツラ